

「岐路を超え駆け抜けていくために」

未来への切符

「へいちく」のない生活なんて考えられない…。

未来のため、「へいちく」を守り抜くために
私たちが日常で出来ることがあります。

もしも鉄道を失ったなら

旧国鉄時代から含めて120年もの間、この故郷にあり続け、地域を支え続けてきた鉄道。存続を守り抜き、地域の悲願として誕生した「へいちく」。そんな地域の大切な財産が今、もがき、苦しんでいます。

赤字を理由に事業者が撤退した鉄道を第三セクター鉄道として地域がお金を出して存続させることは、簡単なことではありません。実際に全国では2000年以降33もの路線が姿を消しています。「へいちく」がなくなったらどうなるのか、誰が困るのか…。そう考えたとき、直接的な利用者だけの問題ではないことに気づきます。特に通学などの教育面と高

齢者利用の福祉面で打撃を受けることとなります。さらに、教育面と福祉面で不利になった地域で、新たに暮らそうとする人は激減するでしょう。そして、住みにくくなった地域に住み続けようとする人も少なくなります。子どものため、自分の将来のために転出する人が後を絶たなくなれば、町の勢いはなくなり、町の収入も半減します。行政サービスの悪化が更なる人口流出へとつながり、町は衰退していきます。

乗って残そう未来へ

「へいちく」が厳しい現状は分かれます。ではどうすれば地域の鉄道が守られるのか。答えはズバリ、一度でも「乗る」ことです。現在、「へいちく」が走る沿線自治体は9市町村。9月末時点での合計人口は26万568人です。仮に1人が1年に1回利用した場合、平均乗車料金310円で計算すると約8千万円になります。割引対象の小学生以下(平成22年国勢調査参考)を除いても約7千万円。昨年の「へいちく」の損益約1億円の穴埋めに近づく金額です。さらにもう1回乗れば、未来への積み立てができます。

それは少子高齢化と人口減少が進む厳しい将来に備えた蓄えとなり、未来の子どもたちへ「へいちく」をつなぐことが約束されます。イベントやお酒の席への参加など目的はさまざまですが、意識して年に一度でも利用すれば「へいちく」は守られます。皆さんにとつての、たった一度は「へいちく」にとつての、未来につながる一度になります。

人を目的地へと運ぶことが「へいちく」本来の役目。その日常のゆるぎないニーズがあれば「へいちく」は存続の岐路を超え、まだまだ故郷を駆け抜けることができます。

これからもずっと、子どもたちの夢や青春を運び続けられるように…。人生を最後まで豊かに謳歌できるように…。私たちのほんの少しの行動は、未来につながる大切な切符を握っています。

車両を待つ学生の声がこだまする金田駅。「へいちく」は今も昔もこれからも、なくてはならない「マイルール」です。地域の鉄道を守り育ていく「マイルール意識」が醸成すれば、他の利用者への思いやりや地域に対する愛着、住む町への誇りを生むことにもつながっていきます…。